

つながりたいから

オンラインで!

生活クラブ生協大阪 消費材委員会 2020.2.1

伊賀有機農産供給センター 生産者交流会の報告

昨年11/19「やさいBOX」の野菜の産地である伊賀有機農産供給センターとオンラインで生産者交流会を開催しました。今年度は新型コロナウイルス感染拡大の影響から、多人数が直接集まる交流会が難しいため、規模を縮小しZoom(映像と音声による通信システム)を使った交流会とし、またその様子をYouTubeにて配信しました。会場に直接参加した組合員11名、自宅などからのYouTubeの視聴者20名でした。



伊賀有機農産供給センターは20代から60代までの14軒の生産者グループです。「やさいBOX」への供給量が一番多い生産者で、大阪から比較的近い距離にあることから毎年交流を重ねています。

初めに、Zoomによる中継画面で新垣さん(就農3年若手生産者)の畑を見ました。一面に広がる畑から夫婦2人で作業をする大変さを感じつつ、雑草と共生して成長するほうれん草など露地栽培の様子を見ました。画面を通じて「この野菜は何でしょう?」のクイズに会場はワイワイ盛り上がり、たくさんの質疑応答もできました。

続いて、伊賀での就農11年になる山口さんからはスライド写真を使って伊賀有機農産の年間の作業内容や収穫物などの説明がありました。伊賀のごろごろと固まった粘土質の土は水はけが悪く畑には向いていません。そこで、空気を入れるように耕しながら、もみ殻などの有機物を混ぜ込んで土づくりをするという話が印象的でした。土がフカフカになり、土の中の微生物が元気になって有機栽培に適した畑になるということです。



「農薬を使わず環境に配慮しながら自然にある命の環の中で生きたい」、「自然と共生した畑でできた作物を食べてくれる人と分かち合い共有したい」など、めざしている農業についても理解が深まりました。多少の虫食いは当たり前! これから先、将来の子ども達がこの畑で収穫された野菜を食べ続けられるよう、私たちは産地との信頼関係を築き「登録して食べること」を継続していかねばならないと思います。こうした取り組みが若い生産者を増やし、国内自給力を上げるために必要なことだと感じました。

産地に行ったことがない人も、画面越しではありますが畑の様子がわかるのはライブ配信だからこそ! 「やさいBOX」で届く野菜に、より愛おしさを感じ、生産者の想いと産地を身近に感じられたオンラインでの生産者交流会でした。



参加した
新人委員からの
感想

初めて交流会にオンラインで参加しました。

畑の周りの環境が良く、車で中継場所を移動中の景色から工場どころか住宅すら無い自然の中で育った野菜だということがよくわかりました。空気や水が綺麗なんだろうな、どんな水路からの水を使われているのかが実際に見てみたいと思いました。

一番印象に残ったのは、動物の被害についてお聞きした時に山口さんがおっしゃった「動物は元々そこに住んでいたもので、少しくらい野菜を食べられても仕方ない」という考え方でした。いつの間にか人間や経済が一番で動物は邪魔な生き物で、駆除して当たり前という考えになっていました。人間も自然の中で生かされている生き物の一つで、共存できるように考える事が大切なんだと教えられました。

それから野菜の虫食いやカビがあった時も苦情を言うのが申し訳なくて伝えないでいましたが、正直に伝えることで「やさいBOX」の品質向上に繋がるのだと理解出来ました。農家の皆さんが野菜作りに真摯に向き合う姿勢に感銘を受けました。

